

2023 年 8 月 24 日

雑穀街道の FAO 世界農業遺産登録に関する説明会（ご案内）



雑穀街道普及会 幹事代表 木俣美樹男
ワノサト・エコビレッジ（縄文リビングラボ西原）事務局長 梶間陽一

関東山地南部の山梨県東部地域および隣接する神奈川県北部地域は、首都圏にありながらも過疎・高齢化が著しい典型的な農山村地域です。秩父多摩甲斐国立公園の周辺の美しい里山景観の中で、野生生物が豊かに生存している一方で、野生動物による食害は森林から農耕地に及んでもいます。また、耕作放棄地も拡大し、自然環境に適応して形成されてきた伝統的な山間地・里山での栽培植物の在来品種、農耕技術、それらの加工調理技術、さらに農耕儀礼など、伝統文化の継承が消滅・危急の時期を迎えています。

特に、上野原市桐原・西原地区は、パキスタンのフンザ地方と並び称されたほどの穀菜食による世界的に知られた健康長寿村で、生物多様性に依拠した文化多様性も豊かに蓄積されてきた地域社会でした。しかし、この 50 年ほどで、生物多様性のみか、随伴する文化多様性までが過疎・高齢化の末期的状況により、著しく衰退傾向にあり、継承の危機に瀕しています。山間地・里山における自然共生社会には、生物文化多様性保全の手法を継承して、野生生物と人間が共存、共生可能な生活技能を再構築することが最重要課題です。

地球環境変動、多くの自然災害や病虫害の拡大など、現代文明は危機的状態にあります。人間社会を安定的に維持するためには、とりわけ食料安全保障が基盤であり、地域に適した在来作物の品種の保全・継承・普及に努める必要があります。

このような課題解決に向け自然共生社会を再構築するために、植物と人々の博物館はエコミュージアム日本村の中心施設として、農山村地域の自然共生的な生活文化の基層（縄文文化の系譜、畑作伝統の温故）にある、栽培植物、雑穀、いも、野菜などの在来品種を保存継承するためのローカル・シード・バンク作りを進めてきました。さらに、自然共生してきた農山村社会で、在来品種の栽培生産を維持、加工調理し、伝統食を活かしながら、新たな食品を開発して、地域経済を展開する一般的手法を探求してきています。これまで 50 年余りの地道な成果の蓄積を継承、発展させるために、雑穀街道普及会の事務局を担当し、NPO 法人、農業生産法人、自治体などが連携する登録申請団体として、FAO 世界農業遺産「雑穀街道～農山村における生物文化多様性保全」をめざしています。

さらに合わせて現代文明の叡智を結集させた里山エコビレッジ創造や縄文リビングラボの設立を目指し、多様な市民、団体、外部ブレーンを総動員した山間地域復興プロジェクトとして取り組みます。このような新たな構想も含めて、ご理解・ご協力を得るための説明会開催を呼びかけますのでご参加ください。

記

目的：行政担当者や地域住民に、雑穀街道の歴史的誇りと未来への重要性を学術的、実践的に説明し、FAO 世界農業遺産登録申請に関する理解を深めていただき、ご賛同を勧める。

日時：9月22日（金）午後2～4時

場所：上野原市役所隣接、もみじホール（文化ホール）2階会議室2

参加定員：会場50名、ウェビナーZOOM配信

資料代：任意寄附

主な内容：

1. 雑穀街道と植物と人々の博物館

～雑穀など在来作物の重要な価値、里山での生業の継承を学び楽しむ

2. 雑穀街道筋における住民による家族農耕・農業の実践報告

3. 里山エコビレッジ創造や縄文リビングラボの設立構想

4. 話し合い。

参加案内先：山梨県、上野原市、小菅村、丹波山村、および神奈川県、相模原市の行政担当者、協賛団体、住民ほか関心のある方々。

主催（事務担当）：雑穀街道普及会、ワノサト・エコビレッジ（縄文リビングラボ西原）

協賛：NPO 自然文化誌研究会／植物と人々の博物館ほか、雑穀街道地域の市民団体など

添付資料：雑穀街道をFAO世界農業遺産に（5刷2023.6.27）

参加申込先：雑穀街道普及会 事務幹事 木俣美樹男 メールでお願いします。

kibi20kijin@yahoo.co.jp または kimatami@u-gakugei.ac.jp

参加申込者に二次案内をお送りします。また、ZOOM参加者にはURLをお知らせします。

.....

参加申し込み書 コピーしてお使いください

氏名：

メール・アドレス：

参加方法： 会場出席

ZOOM参加

よろしかったら

所属団体：

参加動機、そのほかご意見など：